

## 生まれ変わらなければいけないのなら

### <令和6年度修了式 校長講話>

本日、令和6年度の最終登校日、後期終業日を迎えました。

ここ数年、立場上、大勢の前でしゃべったり、いろんな文章を発信したり寄稿したりすることが多くて、正直たいへんだと言えたいへんなのですが、せっかく何かを伝える機会ならばと、自分なりにそれなりの話をいろいろ考えたりして準備しているつもりでいます。

特に皆さんには、「あー、今日の校長先生の話はすごかった」などといった代物の話ができずに今年も終わるかと思うと本当に申し訳なく思っています。

それどころか「校長は話が長くて」なんて酷評している人も中には少なからずいるのは承知していますが、こちらとしても、伝えたいこと訴えたいことが山ほどあるからこそ、みんなの前で話したり校長だよりを書いているわけで、単なる義務感や形式だけで適当に行っているつもりは毛頭ないことだけは理解してください。

たくさんの生徒や保護者の中で、たった一人でも何かを感じ取ってくれたらと思って、今日も今年度最後の話をしたいと思います。

これは私だけかもしれませんが、人間の記憶というのは不思議なもので、自分にとって本当に衝撃的だったとか、ためになったとか、感動した、ということばかり覚えているかというところではなくて、どうでもいいありきたりの話や出来事を今でもはっきり覚えていることがあるものです。

私が卒業した中学校の全校朝会では、校長先生を含めてすべての先生が持ち回りで全校生徒に講話をしていました。

私も当時のほとんどの話は全く覚えていませんが、たった一つの話だけは記憶に残っています。その講話をした先生とはほとんど接点はありませんでしたし、話の内容もそれほど感動的なものと言えるわけではありませんでした。

話の中身は、「私は馬が好きだ。でもサラブレットよりも駄馬がいい。もし馬として生まれかわってくるのなら、サラブレットよりも駄馬がいい」というものでした。「駄馬」という言葉を知ったのはその日が初めてでした。

サラブレットとは、競走馬に代表されるような毛並みが良くて、血統書付きの名門の出のかっこいい馬であり、一方、駄馬とは、人や重い貨物を背中に載せて運搬するために人間に利用されこき使われる使役動物の、見かけはみすぼらしい馬のことです。外見はよくないけど、サラブレットよりも駄馬の方が、世の中にとってはずっと役に立ってきた存在だと思うという理由付けを、その先生はしていたような記憶しています。

決して悪い話ではありませんが、客観的には「そういうことね」という程度の内容なのに今でも覚えているのが不思議なくらいです。いかにも、ギャンブル、とりわけ競馬なんか大好きそうな雰囲気先生の先生にも見えたのに。めちゃくちゃイケメンのスポーツマンタイプの先生だったのも覚えています。

「今度生まれ変わってくるのなら」と考えたことが誰しもあるのではと思いますが、私にとっては、やっぱりまた人間で生まれてくること以外に選択の余地などはありません。

そういえば、1958年に制作されたテレビドラマで「私は貝になりたい」という名作がありました。テレビ放送黎明期に制作され大きな反響を呼び、日本のテレビ史に語り継がれている伝説の名作です。白黒映像で、主演は昭和の名優フランキー堺でした。

このドラマでは、太平洋戦争後、理髪店でまじめに働いていた男が、戦争中に敵軍の兵士を上官の命令で殺したことを戦犯扱いとされ、本当は無実だったにもかかわらず、その主張は認められることなく裁判で死刑を宣告されるのです。処刑の日を待ちながら、

「もう人間には二度と生まれてきたくない。こんなひどい目に遭わされるなら、馬や牛の方がいい。いや、馬や牛になってもきっとまた人間にひどい目に遭わされる。いっそのこと深い深い海の底の貝に……。そうだ貝がいい。どうしても生まれ変わらなければいけないのなら、深い海の底で、戦争も兵隊も無い、家族を心配することもない、私は貝になりたい」と彼は遺書を残すのでした。

年度最終授業日に、暗く湿っぽい話になりたいへん申し訳ありませんが、こんな世の中だからこそ、私からの強い強い平和へのメッセージだと受け止めてください。

世の中には、理不尽なことも不条理なことも、つらくて悲しくてせつないこともたくさんあります。しかし、世の中が平和である以上に尊いことはありません。その平和の担い手こそが、皆さん一人一人なのです。

いつまでもだれもが平和を謳歌できる社会への希望を抱き、新たなすばらしいスタートをきれる令和7年度を迎える心の準備をしましょう。

実はこの「私は貝になりたい」は、2008年、ここ数か月の渦中の人物である中居正広主演でテレビドラマとしてリメイクされ、そのドラマもとても好評でした。放送されたのは、フジテレビではなくTBS系列でしたが。

芸能界を引退した中居君も、今頃「こんなはずではなかった。今度生まれ変わるなら私は貝になりたい」と思っているかもしれません。

生まれ変わってくるとしたなら、「私は貝になりたい」なんて私は決して思いません。でも、生まれ変わっても、やっぱりまた「私は貝塚になりたい」とは強く思っています。

あばよ令和6年度。そして、生まれ変わってさらに成長したみんなの姿を見てみたい。そんな令和7年度が待ち遠しい。